

特別支援教育担当ステップアップ研修講座Ⅰ(前期) 東山地域交流センター (R8.6.1)

本研修は、今年度、初めて特別支援教育担当になった先生方を対象に行われる研修です。(46名参加)
初めに、昨年度学校公開が行われた、奥州市立衣川小学校沢田美香教諭(現一関市立山目小学校)、千田雅彦教諭による特別支援学級(自閉症・情緒障がい、知的障がい)の自立活動の授業をVTRで視聴しました。子どもが主体的に学習を進められるために、教師はどのような教室環境・言語環境を整えればよいのか、大切なことを学ぶことができました。グループ協議は、障がい種別に分かれて、普段抱えている課題の解決の糸口を、中核コーディネーターや特別支援学校の先生方にファシリテートしていただきながら探りました。明日からの取組が見える協議でした。

■授業参観

「みんなとつながろう みんなでつなげよう」
～なかよし交流会を通して～



【授業・研究協議から学んだこと(研修者の感想より)】

- 子どもたちが、ここまでできるのかと驚いた。教えることと任せることのバランスがとてもいい。
- 子どものペースを乱さないように、先生は見守りながら記録に徹しているので、安心して話し合いを進めることができていた。
- とても温かい雰囲気があり、できたこと・頑張ったことを適宜ほめていた。自信になり次の活動にもつながると感じた。
- 単元の見通しから振り返りまで、視覚的にも捉えられるようになっていて、子どもがわかりやすく、安心して取り組んでいた。
- 声のトーンや言葉の速さ、選ぶ言葉が参考になった。
- 振り返りでタブレットを使用していた。使い慣れている。
- 自分も子どもを信じ、手を貸さずに寄り添える教師でありたい。

■グループ協議(研修者の感想より) *みんな同じように悩んでいる… *話し合って心が軽くなった!

- 子どもの自主性と目標が大切だとわかった。達成感を感じられるような手立てに取り組みたい。
- 選択肢を用い、自分で選ばせることが大事。成功体験を積み、できたことをほめ、自己肯定感を高めていきたい。
- 子どもたちとのコミュニケーションが大切だとわかった。そこから信頼関係が生まれてくる。苦手なことや困っていることも含めた子どもの思いを引き出す声かけや対話を大切にしたい。
- 困っていることだけでなく、子どもが得意なことや楽しめることをたくさんすること、また、担任も楽しむことが大事だとお聞きし、「こうしなければ」ではなく「こういうこともしていいんだ。」と考えることができた。
- 「どんどん挑戦して、ヒットしたら続けてみる」という言葉が印象に残った。

講義『障がいの基本的理解と「個別的教育支援計画」の活用について』

(県南教育事務所 佐藤 雅美 特別支援教育エリアコーディネーター)

- 障がいは、個人の特性だけでなく、環境との相互作用によって生じる。環境を整えることで、児童生徒の力を発揮しやすくなり、活動や参加の幅が広がる。
- 特別支援教育は、知的発達の遅れがない発達障がいを含め、特別な支援を必要とするすべての児童生徒に対して、自立と社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するものである。児童生徒一人ひとりの実態に合わせて連続性のある多様な学びの場が検討されている。どの学びの場であれば、力を発揮し力を高めていくことができるか、検討することが大切である。
- 早期からの一貫した支援のために、幼児期から卒業後までを見据えた「個別的教育支援計画」を作成し、関係機関と連携・情報共有を行う。その計画をもとに個別の教育的ニーズに応じた具体的な指導目標や支援の手立てを記載した「個別の指導計画」を作成し、活用する。
- 「個別的教育支援計画」は、指導に関わる大人の共通理解を促し、継続的な支援を可能にする記録である。児童生徒の状況を保護者や関係機関で情報共有し、継続した指導支援を行うため、全県統一様式の「引継ぎシート」の活用が進められている。



●講義『障がいの基本的理解と「個別的教育支援計画」の活用について』

個別的教育支援計画の作成の際や校内研等で、ご活用ください。(令和9年3月末日まで視聴可能)

【動画 URL】 <https://youtu.be/POopYJzx-W4>

【動画二次元コード】

